



キャンプの経験は人を育て その人の人生を変える

武田 寿子

Takeda Toshiko

元神戸YMCA
余島キャンプリーダー
学校法人神戸滋慶学園
神戸製菓専門学校校長
前神戸YMCA理事長
日本YMCA同盟監事

▼ キャンプの意味

アメリカでは父親は子どもに、野球と釣りとキャンプを体験させることで人生の生き方を教えると言います。野球はキャッチボールで、いかに相手の受けやすいボールを投げるかを工夫し、コミュニケーションの大切さを学ぶ。釣りは忍耐を、キャンプでは、生きることの原点を身に付けさせるのだと。

▼ リーダー活動に夢中だった女学生時代

私が初めてYMCA キャンプと出会ったのは、リーダーとして参加した神戸YMCAの山のキャンプでした。神戸YMCAの今井鎮雄先生が、実験的に神戸の北部の山田に1959年の夏に行ったキャンプです。休耕田にパネルを敷きつめテントをはり、かんがい用水をプール代わりに使用、井戸掘りから始まった原始的なキャンプでした。困難な状況の中でいかに安全で楽しい状況をキャンパーのために作り出すかを学んだ貴重な体験でした。

それ以来、YMCAキャンプのリーダー活動に夢中になり、山のキャンプはもちろん、余島の長期少年キャンプへもリーダーとして参加しました。

YMCAキャンプに参加する子どもたちの楽しそうな笑顔と歓声に魅了され、結局学生時代の夏は家で過ごした記憶がなく、50年以上前の女学生としては、かなりのアウトドア派だったと思います。

さらに、私の活動範囲はYMCAキャンプだけにとどまらず、女学校や教会で行われるキャンプにもカウンセラー（リーダー）として参加するようになりました。楽しいキャンプに夢中だった女学生時代の最終学年に、忘れられない出来事が起こりました。

▼ キャンプとの出会いが人生の原点

1959年9月、巨大な台風が東海地方に上陸し甚大な被害が発生しました。いわゆる「伊勢湾台風*」です。神戸YMCAからも救援活動ボランティアが派遣されることとなり、私はこの救援活動に駆け付けました。数々のキャンプのリーダー活動で私が学んでいたのは、他者の痛みを共有し、できるときに自分のやれることをする、という生き方でした。

この救援活動へ参加することは、私にとって極めて自然なことだったのです。アメリカの父親がキャンプを通して教えるという、「生きることの原点」を、私はYMCAキャンプを通して身につけていたのだと思います。



その後、就職、結婚、子育てなどしながら、神戸YMCAをはじめ、アジア太平洋YMCA同盟、世界YMCA同盟の常務委員などをしてきました。インド洋で起こった大津波や、自然災害、紛争などに苦しむ国にあるYMCAに、世界中のYMCAが協力の手を差し伸べて、ワークキャンプを行い、支援をし、痛みを分かち合っているのを肌で感じる事ができました。このYMCA運動の素晴らしさをもっともっと今の若者に知ってもらいたいと思いました。

* 伊勢湾台風

1959（昭和34）年9月26日、超大型の台風15号が中部地方などを襲った。伊勢湾では高潮を引き起こし名古屋市南部などが泥海と化した。伊勢湾台風の死者・行方不明者は愛知、三重両県を中心に5千人を超え、住宅の全半壊約15万戸という近代最悪の台風被害をもたらした。（写真 共同通信社）

▼これからのYMCA とキャンプへの期待

神戸YMCAとチャンマイYMCAとの若者のワークキャンプが30年を越えて継続されています。タイの北部の寒村で両国の若者が、地域が必要としている建物を建設するために汗を流し、チームを組んで働く貴重な経験をし、その後グローバルな視点を持ったリーダーとして各分野で活躍しています。

また神戸YMCAを支える多くの理事、役員が若い日にキャンパーやリーダーとしての体験があり、それがYMCA運動を支える原動力になっていると実感しています。

聖書の中に「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたことは、すなわち、わたしにしたことである」というイエス・キリストの言葉があります。弱い立場にある人を「兄弟」と言われたキリストの生き方に倣うことは、キャンプリーダーの原点ではないでしょうか。



Kobe - Chiangmai YMCA Thai Youth Work Camp facebook より

Profile



1941年生まれ。

日本航空国際線客室乗務員を経て国際耳鼻咽喉学会連合事務局専務秘書、その後大阪医療技術専門学校専任講師、同校副校長を経て現職。

神戸YMCA 理事や理事長、またアジア太平洋YMCA同盟、世界YMCA同盟の常務委員などを歴任。

夫、武田 建氏との間に一男一女